

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念の中には、地域交流する事を目的とした内容が盛り込まれている。又、地域の一人であるよう町内会に入居者全員入会している。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝唱和し理念のを理解し共有と実践に努めている。又、全職員が携帯し何時でも確認が取れるようにしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念は70A-の目の届く場所に設置している。又回覧板やパンフレットなどに掲示し目的などを皆さんに伝えている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方と会った際は挨拶を交わしている。又、1Fには近所方が良く遊びに来られています。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の方々にご理解を頂くために、町内会の会議や行事へは積極的な参加、学童保育の児童との交流、町内会へ広報誌の回覧等をしており、利用者と職員と一緒に地域住民の皆様と交流をしている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近郊の方から相談によりサービス利用までの間、気軽に出向いてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価内容を基に話し合いや検討する機会を設けている。又、評価を行なう事で日々気付きにくい内容等についても確認や向上に向け話し合いをする機会を設けやすい。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	状況報告をし意見等集め取り組んでいる。又、毎回ではないが地域(町内会婦人部)の新しい顔ぶれもある。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者会議に参加し情報交換をすると共に連携を図っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護について細かな手続きなど理解に乏しい所も有るが必要に応じ学べる機会もある。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	職員は研修の成果を全職員を対象に研修報告を実施し、共通理解のもとで虐待防止の徹底をしている。又、各々にストレスに感じる事が無いよう話し合いなどもしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族や入居者の不安を取り除くように話し合いを何度も行ない、双方十分理解・納得した上で結果を出すように努めている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議には入居者も必ず参加し、外部への意見を提示できる場を提供しているものの、意見が出ずらい。本人の希望・要望については日々の関わりの中から感じ取る事が出来、その内容を運営推進会議で相談することも出来る。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>面会時や電話にて生活状況・体調などの報告をしており、家族の皆様と交流を図り情報交換をしている。又、定期的に新聞を発行し入居者の近況報告をしている。金銭の管理は現金出納帳及び領収書等の書類を保管し家族に報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置や家族の来訪時会話などから聞く様に心掛けている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体に関しては月1回の会議にて意見交換し、個人的な意見や提案はその都度会話の中から発見し反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の病院受診に係る送迎及び引率業務や家族の要望による職員協力があった際には、職員の協力を得て勤務調整並びに管理者と相談しながら職員体制の確保に努めている。職員の体調不良・家庭の事情による緊急な勤務変更があった場合も早急に対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の入れ替わりの際は早く馴染みの関係が築けるようフォローしながら関わっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験年数により研修内容に変化をつけ外部研修などに参加している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者会議などにて、管理者間での情報交換やネットワーク作りを行っており、又、その研修会にも参加することで更なる質の向上を図れるように取り組んでいる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	常に職員と話しをする事により職員のストレス軽減に努めている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各々がどのように考えているのかを把握し職員にとって無理の無いよう働きかけている。又スキルアップを積極的に望む職員については研修など行きやすい状態である。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	少しでも不安が取れるように事前に見学等して頂き雰囲気を感じてもらう。又、面接時等で会話の中から本人の思いを汲み取る努力をしている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	契約前後で情報収集しながら不安なこと等を聴く機会をつくり受け止める努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期相談時には、他医療・福祉関係職が既に見極め勧められて来ている事が多い為他のサービスを勧める機会は少ないが、相談にはその時の不安に思っている事を解消出来るよう説明している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族の話をじっくり聞き、何を求めているのかを確認している。又、入居の際は意思を確認しながらホームに馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日頃、歓談の際には昔の経験談をお聞きしたり、最近の話題のお話をしたり、笑いが多き雰囲気作り心掛けています。歌を歌ったり、あや取り等昔の遊びをして交流を図っている。		業務に追われ、じっくりと共に過ごし支えあうような時間が築けないで居る日もある。じっくりとお話しや共に過ごせる時間を作っていけると良い。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の家族が面会に来た際には、挨拶はもちろんの事、笑顔で対応をしご本人の生活状況の報告を交え、ご家族の状況もお聞きしたり、施設と家族が一体感を持って本人を支えていくよう心掛けています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族については日頃より利用者の状況を報告し、理解していただいた上で出来る限り面会に来ていただき、心の支えは家族であることを家族にも十分理解していただくよう心掛けています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日頃の会話の中に、家族の名前、生活していた環境、昔の思い出等本人よりお聞きする機会を多く設けている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	特にリビングが入居者同士の関わりあえる場所の為、なるべく多くの時間をリビングで取っていただくよう配慮したり、ソファの腰掛場所を時には違う場所をお勧めしたり、隣に座る利用者に変化を付けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も近況報告を文章で頂いていた時も有るが現在は年1回退居者の家族が来訪されるくらいである。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや意思の確認は必ず本人からお聞きするよう職員は努力しており、言葉では確認できない時は身振り手振り等で理解するよう努力している。又、日々変化する思いも敏感に捉え、職員同士で情報交換等連携を図っている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者様一人ひとりを理解するために、入居された時の記録等随時目を通したり、本人に昔の思い出や今までの生活状況などお聞きしている。又、家族が面会に来られた際に、お話しをお聞きするよう心掛けている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の業務日誌、利用者の個人記録の作成や綿密な引継ぎにより、全職員が生活状況、精神状況、活動状況等情報を共有化し利用者全体の現状を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族と必要な情報を共有しカンファレンスを実施。生活状況、身体状況、などを確認し現状に合わせた適切な対応が出来る為の話し合いをし介護計画を作成している。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的カンファレンスを実施し、利用者や家族の要望等を盛り込みながら、毎回現状に合わせた介護計画の見直しをしている。又、病院受診の結果に伴う医療情報や服薬の情報等変化があった際には介護計画に反映させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>38 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者の方々の変化などその都度話し合いをし記録に残すなどして職員間で情報の共有をしその後の計画作成に活かしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>39 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院受診や買い物、外食等本人や家族の要望により対応するように努めている。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>40 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>運営推進会議にて民生委員や役所の方々も参加して頂いている為支援できる状況にある。</p>		
<p>41 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>本にとっての生活を満足いくものにする為、他のサービスを利用することも可能である。又、家族等の意見も考慮し支援を考えていく事に努める。</p>		
<p>42 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議に参加して頂いているので必要時には相談・援助してもらう事も可能である。</p>		
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前の係り付け病院に受診することも可能である。又、馴染みのホームドクターにて継続的に支援をしている。</p>		
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>週1回の馴染みのホームドクターが往診にこられており、長年認知症の症状を診察してもらっている。入居者からも健康や生活に関する相談を気兼ね無く出来ている。馴染みのホームドクターが全身の診察をされていることに加え、年1回脳外科にて検査も行っており、必要時更に専門医に掛かれる体制をとっている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回の訪問看護により、入居者の健康状態の把握をしていると共に、スタッフや入居者により気軽に相談できる状況にある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	突発的な入院も想定し常に薬の情報や診療情報提供書は常備している。又、入院時には入院前の状況を出来るだけ細かく伝え病院関係者との情報交換を行い早期退院に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合は1週間に1度ご家族・ホームドクター及び管理者と話し合いを行い方向性を決め本人やご家族にとって良い方法を都度決めている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	定期的に医療職が往診してくれる為に、現状や先の予測について話し合いは行っている。そのため、重度化についての相談は常に行っている		
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ご家族等と話し合いをし本人が少しでも安心できるような情報提供に努めダメージが少ないような対応に努める。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	居室にはネームプレートは使用せず、代わりに写真を貼って対応している。お名前をお呼びする際にはさん付けでお呼びしたり、各個人の記録は施錠で管理し、個人情報取扱いは厳重に管理している。会話の中でもプライバシーを損ねるような言葉掛けや発言はしないよう心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は常に利用者の表情・言動・行動に注意を払い常に声掛けをしながら本人の意思を引き出すように心掛けている。又、職員が一方的に誘導するのではなく、生活している中で本人に選択肢を与える機会を多く取り入れている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>各個人の体調や生活ペースは異なるため、本人の希望通りの生活をしていただいている。又、レクリエーションやお散歩等の声掛けをしたり、お手伝いをお願いしたり、本人の希望が選択できるよう暮らしのお手伝いをしている。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>毎朝の洗面時には、身だしなみとして洗顔後の整髪や髭剃り、衣類の選択、服装の選択について声掛けをしたり、訪問理美容の活用について、本人並びに家族と連絡調整をし活用している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事は職員が全て手作りで調理し、食材も2日ごとに新鮮な食材を業者より配達されている。食材の種分け・食材切り等声掛けによりお手伝いをしていただいている。利用者と職員が同じテーブルにて食事をし、会話をしながら楽しく召し上がっていただいている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>可能な範囲で入居者の方々の好みを聞き、お酒・煙草に関しては好む方が減っているのと病気の面から止められている方もいる為提供・支援はしていない。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄が難しい利用者には、24時間排泄チェックをしており、オムツの利用を極力しないようにする事と、自らの意思による排泄をしていただくために、各自のパターンを理解しながら声かけをするなどし、スムーズな排便を促している。又、排泄の失敗が無いよう、状況によっては職員が見守りするなど支援をしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>入浴やシャワー浴の希望があった際は何時でも入浴できるよう準備をしている。入浴の際は必ず声掛けをし本人の希望時間等を確認してご利用していただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援し ている。	各入居者の方々の体調・年齢・生 活習慣などを考慮し無理の無い休 息をの支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支 援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている。	今までの生活の延長として職員と 共に食事準備や掃除等をお手伝 いして頂き天気の良い日は散歩 に行かれ楽しませています。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	お金の所持については、本人・家 族・施設とで事前に話し合いを し、本人の所持金は施設でお預 かりをし、理美容等の定期的な 支出や本人の買い物希望に応じ てお金をお渡している。なお、 管理については、現金出納帳の 記載、領収書等の関係書類を 毎回精査し、家族に報告してい る。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一 人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援している。	毎日の生活の中で、暖かくて天 気の良い日には散歩やベランダ で日光浴をされたり、ドライブ に出かけたりされている。又、 買い物の希望があった場合は 職員が同行し大型スーパーや衣 料品店にお出かけしたりしてい る。		
62 普段行けない場所への外出支 援 一人ひとりが行ってみたい普 段は行けないところに、個別あ るいは他の利用者や家族ととも に出かけられる機会をつくり、 支援している。	年間行事等で提供しご家族の方 へも参加を集い、入居者と共 に外出して頂き支援している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援している。	事前に家族・本人・施設と確認 をしている中で家族への電話 やお手紙の発送について施設 側でも援助しながら自由にや り取りをされている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支 援 家族、知人、友人等、本人の 馴染みの人たちが、いつでも 気軽に訪問でき、居心地よく 過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの人の訪問につ いては、自由に面会をして頂 くよう施設からお願なども している。		
(4) 安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアとして、見守りを中心として自由に動いていただいている。但し、危険が伴う行動が発生した場合は、声かけをして危険の回避をしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関のみ夜間帯に施錠をするが各居室には鍵を一切掛けず、利用者本人が自由に出入りをされている。又、1階の利用者と2階の利用者の交流が図られるよう自由に行き来が出来る配慮をしている。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	各居室はプライバシーの為ドアは閉められているが、利用者が自室で過ごされる場合も、随時声かけをしながら見守りをして、安全の確認をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	施設で共同で使用する注意の必要な物品は、職員が保管・管理をしており、必要に応じて利用者にお貸しし、見守りの中で使用され、使用後はお預かりをし保管をしている。又、利用者の身体能力・精神状態は異なるため認知症の状態により注意の必要な物品は無くすのではなく、取扱と管理に注意し本人と話し合いをしてお持ち頂く事もある。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員は各種研修会があった場合は、積極的に参加し事故防止のための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。又、日頃より新聞報道などにて情報収集し職員間で意識の向上に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	日頃の研修会や職員間で訓練の機会があれば積極的に参加している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対応マニュアルを整備しており、定期的に職員・利用者の参加により火災訓練もされている。又、運営推進会議のメンバーにも参加して頂き地域の人達が参加して頂ける方法など確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	事前に危険を予測し、ご家族には文章及び電話などにて説明し対策などについては協議している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃の見守りの中から、利用者の体調の変化や異変に気が付き速やかに職員間で状況確認の後、管理者・ホームドクターの指示を仰ぎ対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の個々の服用情報を完備し、職員は随時情報を入手している。又、体調の変化により、服薬が変更になった場合は申し送りはもちろんの事連絡ノート・業務日誌にも記載し変更の確認をしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	入居者一人ひとりの体調・食事・水分量などの確認や、毎日の排便状況も確認し必要に応じ薬による調整や生活リズムなどの見直しを図っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きが出来る方は歯磨きをして頂き、義歯の方でうがいも難しい方は本人の拒否が無い限り、毎食後ガーゼを使用し口腔ケアを実践している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養管理については、委託業者の栄養士が管理しており、バランスの良い食事内容と成っている。利用者全員の食事量や水分量の状況を記録に残し健康管理に努めている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者並びに職員は全員インフルエンザの予防接種を施行。又手洗い及びうがいの徹底。特に、外出から帰宅の際は気を付けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は業者に発注し、配達され次第冷蔵庫及び冷凍庫に保管している。又、台所・調理器具は常に清潔に努め殺菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入居者が自分の家に住まわれているような環境作りと地域に馴染んだ環境の配慮に心掛け玄関前にはお花を飾り庭先には野菜畑を耕作している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング内の共用スペースにあるソファの配置替えを試みたり、季節に応じた切り絵を壁に貼ったり、クリスマスやお正月等には飾り物をして雰囲気を楽しんでいただいている。時には季節ごとに合わせた行事の音楽を掛けたりして雰囲気を出している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間には、昔自分の家に合ったような畳のあるこあがりを用意したり、一人で座れるソファや複数の利用者同士で座れるソファを用意しており、自由に利用者が利用できるよう配慮している。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはベッド・タンス・仏壇・テレビ・ジュタン等持ち込まれており、壁には思い出の写真やカレンダー等が貼られ本人は自由に過ごされている。就寝時にはカーテン等により光が漏れないよう職員は配慮している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	い換気や空調については、常に自然の風が施設内を流れるように、窓の開閉の調整を行ったり、調理の時には匂いがこもらないよう換気扇を使用している。又、冬場は暖房機を使用するため湿度保持のため加湿器を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>出来る限り自立した生活を送っていただく為に、安全な環境作りの一環として施設内をバリアフリーで統一し、浴室・トイレはもちろんの事廊下やリビングには手摺りを設置し、安全に生活していただけるよう工夫している。</p>		
<p>86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者の状況に合わせた個別の環境作りをしており、自分の部屋が分かりにくくなってきた利用者の部屋には本人が気付きやすいような配慮をしている。又時計を小まめに配置し、どこへ行かれても今の時間が分かるように配慮している。</p>		
<p>87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外には、利用者がいつでも土いじりが出来るよう畑を造っている。又、ベランダには利用者がいつでも出入り出来るよう洗濯の物干しを設置し、作業をしながら楽しまれている。</p>		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者の動きに合わせ柔軟な対応が出来、職員はユーモアにあふれている。笑い声が絶えない関係を保てるよう日々努力しています。入居者及びご家族との関係を大切に、ご家族の希望・要望を常に確認している。又、入居者の認知症状もその方の個性と受け止めその人らしさを尊重しています。